

誠心 まごころ

第16号
2023年1月1日発行

発行
医療法人社団 誠広会
平野総合病院



臨床工学課の紹介

技師長 幾高 敏晴

近年の医療のめざましい進歩にともない日常臨床においては、より高度な知識および技術が要求されてきています。特に人体の機能を代行する生命維持管理装置(人工心肺装置、人工呼吸装置、人工透析装置等)を始めとする医療機器の進歩は、医療の新たな可能性を開くものとして大きな役割をはたすようになってきました。これらの機器の操作や保守・

管理には、医学的知識のみならず、工学的な知識をも兼ね備えた高い専門性が求められてきています。

臨床工学技士

臨床工学技士は医療機器の専門医療職です。病院内で、医師・看護師や各種の医療技術者とチームを組んで、現在の医療に不可欠な生命維持管理装置を中心とした医療機器の操作・管理を行う事を主たる業務としています。医療機器が何時でも安心して使用できるよう縁の下の力持ちとして安全性と信頼性の維持・継続に貢献しています。

当院では、臨床工学技士6名(透析技術認定士3名、アフレーシス技術認定士1名、呼吸療法士1名)で業務に従事しております。

業務内容

<血液浄化業務>

慢性腎不全に対する血液透析療法を中心に、腹水濾過濃縮、血漿交換療法、LDL吸着、エンドトキシンや白血球吸着療法等、あらゆる血液浄化療法に対応しています。

「安全・安心」の血液透析実施を目標に透析液ガイドラインに基づく水質管理の徹底、透析中央監視システムによる透析装置およびその他の周辺機器管理(保守・点検)のみならず、患者データも含め一元管理を行っております。

<医療機器管理業務>

人工呼吸器・輸液ポンプ・シリンジポンプ・除細動器等のME機器は安全を第一に保守・点検業務を行なっております。これらのME機器は、医療機器管理システム「CEIA」により、医療機器の貸出・返却業務、保有台数・使用状況の確認、機器の点検・修理等の履歴管理等を総合的に行っています。

この他、医療機器の講習会や勉強会を行いスタッフの医療機器に対する知識の向上、医療の安全性の確保にも貢献しています。

<その他の業務>

透析患者のシャント管理(経皮的血管形成術PTA、血管造影等)を行っています。



新入職員の紹介

リハビリテーション課

4月より入職し、理学療法士としては今年度で3年目となりました。まだまだ知識・技術ともに至らない点があり、先輩方の姿や患者さんに関わらせて頂く中で日々学ばせて頂いております。患者さんのニーズに丁寧に対応し、包括的に支援ができる理学療法士を目指しております。そのため、他職種の方々とも積極的に連携し、患者さん第一に日々努めていきたいと思っておりますので宜しくお願い致します。

理学療法士 平山 睦

私は急性期病院や訪問リハビリでの勤務経験を活かし、幅広い視野をもって患者さんひとりひとりの状態や思いに合わせたリハビリテーションの提供を目指しています。

また不安の多い入院生活を少しでも安心して過ごしていただけるよう、笑顔で寄り添うこと・多職種と連携をとることを常に心がけています。

今後も技術や知識を磨きより良いリハビリテーションが提供できるように、日々努力していきます。よろしく宜しくお願い致します。

作業療法士 秋田 真奈

看護部

5月から西3病棟に配属となりました。

現在、高齢化が進み、健康問題だけではなく、患者さんの取り巻く環境や介護問題を抱えながら、地域で生活をしていく方が増えています。その人らしい暮らしを支える為の資源を提供し、他職種との連携を通して、看護師の役割や患者さんの社会的側面を捉えて関わっていきたいです。

1人1人の患者さんに誠意を持って、接していきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

看護師 堀 加奈

地域医療連携センター

主に前方連携に関わり、基幹病院や開業医からの入院紹介を受けております。また退院支援にも関わっております。基幹病院、開業医、施設、事業所、介護支援専門員との連携はもちろん、患者さんやご家族の相談に関わるため、信頼関係が築けるように努めていきたいと思っております。宜しくお願い致します。

看護師・介護支援専門員 福村 加世

この度、地域医療連携センターで入退院支援に関わることとなりました。

地域包括センターでの勤務経験もあるため、そこで学んだことを活かしながら患者さんやご家族に信頼される職員になれるように努めていきたいと思っております。

社会福祉士・介護支援専門員 佐藤 隆洋

栄養課の紹介

管理栄養士 三浦 峰子



2022年10月6日(木)夕食より待望の温冷配膳車を導入しました。

当院の以前の食事は保温食器を使用しておりましたが、温冷配膳車を使用するようになってからはより一層冷たいものは冷たく、温かいものは温かく提供できるようになりました。

患者さんからは大変好評を得ております。温冷配膳車の導入に伴い、食器、お盆なども全て一新しました。患者さんの喫食量も増えており、食べ残しが減少しております。

管理栄養士は当院入院中の食事を提供している患者さんの元に出来るだけ早期に伺い、味付け、喫食量、食事の形態、嗜好などの確認をさせて頂いております。



〈減塩食〉



〈一般食〉

その時に入院患者さんより『食べる事しか楽しみが無い。』という言葉をよく頂きます。

この言葉をかみしめながら今後も調理スタッフと共に力を合わせて、安全・安心で美味しい給食を提供していきたいと思っております。

喫食量が増えることで、少しでも早期の病氣回復に努めて参りたいと思っております。